

基本施策評価シート

基本施策最終評価

C

基本施策通し番号 35

基本施策 人口減少対策と地方創生の推進
構成施策

| 施策番号 | 施策名 | 施策最終評価 |
|------|---------------|--------|
| 施策1 | 推進体制の確立 | C |
| 施策2 | 総合戦略に基づく事業の推進 | C |

成果指標

| 指標 | 内容 | 平成32年度 目標 | 平成30年度末 実績 | 単位 | 平成30年度の成果の検証 |
|----|-------------------------|--------------|---------------|----|--------------|
| | この基本施策に関連する成果指標は、ありません。 | | | | |

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

| | |
|-----|---|
| 現 状 | 生活スタイルの変化などにより、非婚化や晩婚化が進み、出生率が低下していることが、人口減少の大きな要因として挙げられる中、国と地方が一体となり活力ある社会を維持していくため、国は地方創生と人口減少対策を最重要課題として位置付け、平成26年12月に長期ビジョンと、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、本市においても地方人口ビジョンと地方版総合戦略を策定した。 |
| 課 題 | 総合戦略に基づき、地域経済の発展や安心して産み育てられる環境づくり、交流人口の拡大など、さまざまな施策をできるだけ早く実施し、また、施策の実施に当たっては、本市が独自に人口減少対策の調査分析などに取り組んできた結の故郷創生会議における検討結果との整合性を図る必要がある。 |

社会情勢・市民ニーズの変化

総合戦略に基づく取り組みは4年が経過したが、人口減少対策会議委員による評価は、四つの施策とも「まだ判断できない」との結果が過半数を超え、また、雇用創出、結婚・出産・子育てに関する施策で新たな視点での取り組みが必要との意見が多い。

現在の「現状」と「課題」

| | |
|-----|---|
| 現 状 | 総合戦略と総合計画との整合性を保ちながら、結の故郷創生会議により水への恩返しキャリングウォータープロジェクトや、大野へかえろう事業などを着実かつ発展的に実施している。 |
| 課 題 | 総合戦略と総合計画の計画期間の違い。 新年度において、結の故郷創生会議が解散する予定のなかで、その後の自走に向けた取り組みやこれまでの成果を活用した取り組みの展開。 |

基本施策の「成果」

| | |
|-----|--|
| 成 果 | 総合計画及び総合戦略の各施策が推進されるとともに、地域再生計画に基づく地方創生に資する各事業についても、拡充しつつ順調に継続されている。 |
|-----|--|

改善点

主要施策説明や施策評価などを活用することで、横断的な総合計画及び総合戦略の推進を図ってきたが、施策ごとの課題解決や重点事業の推進を加速させるため、新たな施策の検討を行う。
 人口減少対策においては、引き続き取り組みを進めるとともに、専門部会において課題を掘り下げるなど対策会議における評価、議論に的確に対応し、予算に反映していく。
 総合戦略及び総合計画の改訂時期を見据え、SDGs等も踏まえた計画の体系づくりや新たな成果指標の検討などを行っていく。
 総合戦略と総合計画の計画期間の違いについては、国の方針に基づき対応していく。